

第146回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 商品の購入に関する問題である。商品の購入に関する付随費用は、商品の取得原価に算入する。また、代金の決済として他社振出の手形を裏書譲渡しているため、受取手形の減額として処理する。

(借) 仕 入	502,000	(貸) 受 取 手 形	500,000
		(〃) 現 金	2,000

2. 固定資産の売却に関する問題である。固定資産の売却は、売却金額と固定資産の帳簿価額（取得原価－減価償却累計額）との差額を固定資産売却損益で処理する。また、本問では、売却金額を2週間後に受け取るため、「未収入金」勘定で処理することに注意が必要である。

(借) 備品減価償却累計額	300,000	(貸) 備 品	400,000
(〃) 未 収 入 金	20,000		
(〃) 固 定 資 産 売 却 損	80,000		

※ 固定資産売却損：{¥400,000－¥300,000}（帳簿価額）－¥20,000（売却金額）＝¥80,000

3. 収入印紙の購入に関する問題である。収入印紙は、未使用であれば資産として処理するが、本問では使用済みであるため「租税公課」勘定で処理する。

(借) 租 税 公 課	7,000	(貸) 現 金	7,000
-------------	-------	---------	-------

4. 債権の回収及び貸倒れに関する問題である。前期発生した債権が貸倒れた場合には、当該債権が貸倒引当金の設定対象になっているため、貸倒引当金を補填する。なお、補填できない場合には、貸倒損失として処理する。

(借) 現 金	70,000	(貸) 売 掛 金	200,000
(〃) 貸 倒 引 当 金	130,000		

※ 貸倒引当金：¥200,000（債権金額）－¥70,000（回収額）＝¥130,000

5. 旅費の精算及び手付金の回収に関する問題である。

- (1) 旅費の概算払い時

旅費の概算払額は、勘定科目が不明であるため、「仮払金」勘定で処理する。

(借) 仮 払 金	25,000	(貸) ○ ○ ○	25,000
-----------	--------	-----------	--------

- (2) 旅費の精算及び手付金の回収

商品代金の手付金は、「前受金」勘定で処理する。

(借) 現 金	23,000	(貸) 仮 払 金	25,000
(〃) 旅 費 交 通 費	17,000	(〃) 前 受 金	15,000

※ 現金：¥8,000＋¥15,000＝¥23,000

※ 旅費交通費：¥25,000－¥8,000＝¥17,000

第2問

- (1) 補助簿の説明

- 現金出納帳：現金残高の把握。仕訳にて現金勘定が生じた際に記入する。
- 当座預金出納帳：当座預金残高の把握。仕訳にて当座預金勘定が生じた際に記入する。
- 商品有高帳：商品帳簿有高及び売上原価の把握。仕訳にて仕入及び売上勘定が生じた際に記入する。ただし、売上値引きについては、売価の修正であり、商品原価には影響が無いので、記入しない。

- 売掛金元帳：商店毎の売掛金の把握。仕訳にて売掛金勘定が生じた際に記入する。
- 買掛金元帳：商店毎の買掛金の把握。仕訳にて買掛金勘定が生じた際に記入する。
- 仕入帳：商品購入取引の詳細を把握。仕訳にて仕入勘定が生じた際に記入する。
- 売上帳：商品販売取引の詳細を把握。仕訳にて売上勘定が生じた際に記入する。

- (2) 各取引の仕訳と補助簿の選択は次のとおりである。

5日	(借) 当 座 預 金	2	(貸) 売 上	3、7
	(〃) 売 掛 金	4		
6日	(借) 建 物		(貸) 建 設 仮 勘 定	
			(〃) 当 座 預 金	2
16日	(借) 買 掛 金	5	(貸) 仕 入	3、6
31日①	(借) 当 座 預 金	2	(貸) 現 金 過 不 足	
31日②	(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入		(貸) 貸 倒 引 当 金	

第3問

5月27日から5月31日までの仕訳は下記のようになる。

- ・5月27日

(借) 仕 入	60,000	(貸) 前 払 金	15,000
		(〃) 買 掛 金 ( 栃 木 商 店 )	45,000
(借) 給 料	200,000	(貸) 所 得 税 預 り 金	2,000
		(〃) 現 金	198,000

- ・5月28日

(借) 前 受 金	15,000	(貸) 売 上	80,000
(〃) 売 掛 金 ( 東 京 商 店 )	66,500	(〃) 現 金	1,500
(借) 買 掛 金 ( 栃 木 商 店 )	1,000	(貸) 仕 入	1,000

- ・5月29日

(借) 前 受 金	20,000	(貸) 売 上	100,000
(〃) 売 掛 金 ( 千 葉 商 店 )	80,000		

- ・5月30日

(借) 買 掛 金 ( 茨 城 商 店 )	200,000	(貸) 当 座 預 金	350,000
(〃) 買 掛 金 ( 栃 木 商 店 )	150,000		
(借) 売 上	5,000	(貸) 売 掛 金 ( 千 葉 商 店 )	5,000
(借) 支 払 家 賃	75,000	(貸) 当 座 預 金	75,000
(借) 水 道 光 熱 費	27,000	(貸) 当 座 預 金	27,000
(借) 現 金	150,000	(貸) 当 座 預 金	150,000

- ・5月31日

(借) 仕 入	50,000	(貸) 前 払 金	10,000
(〃)		(〃) 買 掛 金 ( 茨 城 商 店 )	40,000
(借) 当 座 預 金	540,000	(貸) 売 掛 金 ( 東 京 商 店 )	300,000
		(〃) 売 掛 金 ( 千 葉 商 店 )	240,000
(借) 借 入 金	1,000,000	(貸) 当 座 預 金	1,060,000
(〃) 支 払 利 息	60,000		

**第4問**

伝票とは、取引の記録（仕訳）を行う紙片であり、仕訳帳の代わりに用いられるものである。なお、各伝票の使用方法は下記のとおりである。

1. 入金伝票

入金取引を記入する伝票であり、仕訳上の借方が「現金」となる場合に用いる。入金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の貸方科目となる。

2. 出金伝票

出金取引を記入する伝票であり、仕訳上の貸方が「現金」となる場合に用いる。出金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の借方科目となる。

3. 振替伝票

入金伝票および出金伝票以外の取引を記入する伝票である。

以下、各伝票の仕訳を示す。

(1)① 入金伝票

(借) 現	金	300,000	(貸) 売	上	300,000
-------	---	---------	-------	---	---------

② 振替伝票

(借) 受	取	手	形	100,000	(貸) 売	上	100,000
-------	---	---	---	---------	-------	---	---------

(2) 現金の出金はないため、出金伝票の起票はなく、振替伝票での起票となる。

(借) 旅	費	交	通	費	4,000	(貸) 仮	払	金	4,000
-------	---	---	---	---	-------	-------	---	---	-------

**第5問**

1. 現金実査

決算において、現金の帳簿有高と実際有高との差額は、雑損又は雑益として処理する。

(借) 雑	損	2,000	(貸) 現	金	2,000
-------	---	-------	-------	---	-------

※ 雑損：¥128,000（帳簿有高）－¥126,000（実際有高）＝¥2,000

2. 仮受金

(借) 仮	受	金	56,000	(貸) 売	掛	金	56,000
-------	---	---	--------	-------	---	---	--------

◆ 売掛金：¥386,000（残高試算表売掛金）－¥56,000＝¥330,000

3. 貸倒引当金の設定

(借) 貸	倒	引	当	金	繰	入	16,000	(貸) 貸	倒	引	当	金	16,000
-------	---	---	---	---	---	---	--------	-------	---	---	---	---	--------

※ 貸倒引当金繰入：{¥470,000（残高試算表受取手形）＋¥386,000（残高試算表売掛金）－¥56,000（上記2.）} × 3%－¥8,000（残高試算表貸倒引当金）＝¥16,000

◆ 貸倒引当金：¥8,000（残高試算表貸倒引当金）＋¥16,000＝¥24,000

4. 売上原価の算定

計算の便宜上、売上原価勘定で売上原価の算定を行う。

(借) 売	上	原	価	262,000	(貸) 繰	越	商	品	262,000
(借) 売	上	原	価	3,080,000	(貸) 仕	入	3,080,000		
(借) 繰	越	商	品	285,000	(貸) 売	上	原	価	285,000

◆ 売上原価：¥262,000（残高試算表繰越商品）＋¥3,080,000（残高試算表仕入）－¥285,000＝¥3,057,000

5. 消耗品の処理

消耗品の会計処理は、①購入時に費用処理し、決算時に未使用分を資産に計上する方法と、②購入時に資産として処理し、決算時に使用分を費用として処理する方法の2つがある。本問では、残高試算表に消耗品費勘定

が存在するため、前者であることがわかる。そのため、未使用分を資産に計除する処理を行う必要がある。

(借) 消	耗	品	5,000	(貸) 消	耗	品	費	5,000
-------	---	---	-------	-------	---	---	---	-------

◆ 消耗品費：¥43,000（残高試算表消耗品費）－¥5,000＝¥38,000

6. 備品の減価償却

(借) 減	価	償	却	費	65,000	(貸) 備	品	減	価	償	却	累	計	額	65,000
-------	---	---	---	---	--------	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	--------

※ 当期以前取得分：{¥480,000（残高試算表備品）－¥120,000（当期取得分）} ÷ 6年＝¥60,000  
 当期取得分：¥120,000 ÷ 6年 × 3か月（平成28年10月～12月）/12か月＝¥5,000

◆ 減価償却累計額：¥180,000（残高試算表備品減価償却累計額）＋¥65,000＝¥245,000

7. 家賃の繰延べ

(借) 前	払	家	賃	90,000	(貸) 支	払	家	賃	90,000
-------	---	---	---	--------	-------	---	---	---	--------

※ 前払家賃は貸借対照表上「前払費用」で表示される。

◆ 支払家賃：¥450,000（残高試算表支払家賃）－¥90,000＝¥360,000

8. 利息の見越し

(借) 未	収	利	息	2,400	(貸) 受	取	利	息	2,400
-------	---	---	---	-------	-------	---	---	---	-------

※ 未収利息：¥300,000（残高試算表貸付金）× 2.4%  
 × 4か月（平成28年9月～12月）/12か月＝¥2,400

※ 未収利息は貸借対照表上「未収収益」で表示される。

9. 手数料の繰延べ

(借) 受	取	手	数	料	2,000	(貸) 前	受	手	数	料	2,000
-------	---	---	---	---	-------	-------	---	---	---	---	-------

※ 前受手数料は貸借対照表上「前受収益」で表示される。

◆ 受取手数料：¥11,000（残高試算表受取手数料）－¥2,000＝¥9,000